

お茶の水女子大学 伊藤秋子 国民生活センター 磯村浩子 共立女子短

大馬場紀子 千葉大教育 官本みち子 東京家政学院短大 福田協子

目的 主な目的は、第1報に述べた通りである。ここでは、医療費と生活構造との間に  
1) かなる関連がみられるかを分析あることを通して、多様な条件を有する高齢者にとって  
、 真に健康といえる生活ほどのようなものか、また、そこにかなる問題が存在してい  
るか考察する。

方法 調査方法は、第1報に述べた通りである。分析は、受診状況をもとにして、対象  
者を受診点数の階層に分け、これと生活構造をあらわす変数とのクロス集計によった。

結果 1) 受診点数階層による差異の明らかにみられる変数で、男女共通にみられるのは  
趣味の有無、生きがい、友人の数、別居子との交際頻度であった。また、男性の場合に  
は、職業の有無、女性の場合には、家事分担の種類と量に明らかな差異がみられた。

2) 生きがいとして多くあげられた項目は、趣味、仕事、毎日の生活、子どもや孫の成長  
であり、受診点数の低い階層では、仕事、趣味が多くあげられ、階層があがるに従って  
子どもや孫の成長、毎日の生活そのものをあげるものが増加する。3) 職業の有無、趣味  
の有無、家事分担の程度を組合わせて、高齢者のタイプをつくると、男性の場合、点数の  
低い階層には、趣味の有無に関らず、職業を持つタイプの者がより多くみられ、階層があ  
がるに従って、職業、趣味ともに関わらないタイプの者の割合が増加する。女性の場合、受診点  
数の高い階層には、趣味、家事分担ともに関わらない者が多くみられた。4) 満足度は、医療費  
の高低とは直接関連はみられなかったが、職業の有無(男性)、趣味、友人の有無と、相関  
が認められた。5) 以上の結果を、更に年齢別にみると、明らかな差異がみとめられた。